



村上東中学校だより

令和6年5月20日（月）発行 号外

村上東中学校の今年度の学習指導の方針について

校長 近 貴志

保護者の皆様におかれましては常日頃、当校の教育活動にご理解とご協力を賜り心から感謝を申し上げます。誠に有り難うございます。

さて、入学式、PTA 総会でも述べましたとおり、「学校は、生徒たちの現在から将来にわたる幸福 (well-being) を実現するために、平等公正な教育と学びのさらなるイノベーション (改革) を推進することがこれまで以上に求められています。村上東中学校の教育ビジョンは、「一人残らず生徒の学ぶ権利を実現し、その学びの質を高めること」です。

それを実現した結果として、学力向上という成果が上がったり、卒業生が国際社会・地域社会で活躍したりするのだと思います。

さて、着任して1ヶ月間、「どうすれば一人残らず生徒の学ぶ権利を実現し、その学びの質を高めることができるか」、悩みました。テストのあり方についても皆様からご意見を頂戴しました。私なりに結論を出し、教職員に話した内容は以下のとおりです。

- ① 教室に一人も独りにしない学びを実現すること。
- ② 生徒同士で聴き合う関係を作り、対話と協働のコミュニケーションを実現すること。
- ③ 基礎基本の学びと、応用発展の学びで授業をデザインすること。特に**応用発展の学びを強化**すること。

授業で難易度(レベル)の高い課題を扱わないと学力は高くなりません。生徒は本来、難しい課題に挑戦したいという意欲をもっているものだと思います。容易に分かる、解ける課題ばかり扱っていると、分かった生徒は退屈して授業への意欲を失いかねません。一方で、教師は、「生徒全員が『分かった』と成就感を得られる分かりやすい授業をしたい」と思っています。そのため、ともすると課題のレベルが低くなる傾向があります。反面、課題を難しくすると、正答する生徒の割合が下がります。正答にたどりつかない生徒に自力解決を求め続けると、生徒も苦しさを感じます。これらが悪循環となると、学校全体の学力は低下します。そこで、①～③の条件を実現するために、

村上東中学校では、可能な限り生徒同士の対話的・協働的な学びを行い、同時に難易度(レベル)の高い課題をグループで解決して学力を高めます。

目指す対話的・協働的な学びの姿は、以下のような姿です。

- ・ 4人の班（グループ）で学び合う。4人で組めない場合は3人にする。
- ・ 生徒同士で聴き合いながら課題に取り組む。
- ・ 分かった生徒が分からない生徒に説明する場合、解答をすべてそのまま伝えるのではなく、分からない生徒の話を聴き、「こうしてみたら？」と足がかりを提案して解決に至るように手助けするという行動が、最上位の学び合い行動である。
- ・ 基礎基本の課題は、その時間で全員が習得（以後、自力で解けるようになること）を目指す。応用発展の課題は、解決した生徒の説明を足がかりに、解けなかった生徒が解決への手順や活用した基礎基本事項を知り、解決へ向かう。

教員は、「自らの教える技術の洗練」に加えて、「生徒が学び合う場・学び合う関係性の構築」に力を注がなくてはなりません。

目指す生徒の姿

- ① 生徒が難易度の高い課題に進んで取り組み、解決に至らない場合でも、ねばり強く取り組んでいる。
- ② 生徒同士で対話と協働によって学習を進めることができる。疑問点を自由につぶやける、わからないところを聴けるなど、他者受容的な雰囲気・環境で学ぶことができる。

その結果として、

- ・誰一人、授業中に独りで学習していない。
- ・班で助け合う雰囲気を醸成し、いじめを未然に防止する。
- ・他の生徒に伝える活動をとおして、生徒が自らのコミュニケーション能力を高め、将来に社会で活用できるようにする。

5月20日の全校朝会で、生徒には、「他の生徒に、その生徒の立場に立って説明する活動は、自らのコミュニケーション能力を高め、将来社会で活躍するために最も役に立つ能力を身につけることとなります。村上東中学校でその能力を伸ばしてほしい」と話しました。教職員にも、「主体的・対話的で深い学びの授業を追求してほしい」と重ねて話しました。具体的には、生徒の疑問から授業の課題を設定するように努め、これまでより難易度が高い課題に生徒同士で協働して取り組む授業を多くしてほしいということです。

「主体的・対話的で深い学び」の授業の実践に鋭意取り組むことで、単元テスト・まとめテストの実施を「年間9回」から「年間6回以上」に変更いたします。

概要については、以下のとおりです。詳細を今後発行しますので、少々お待ちください。

期間	テスト名	実施教科	部活動の対応
5/14～5/16	単元テスト	5教科が実施した。	2日前から部活動停止を実施した。
6/11～6/13	単元テスト	一部の教科が実施する。	部活動ガイドラインに従って実施可。
7/2～7/4	まとめテスト	全ての教科が実施する。	5日前から部活動を停止する。
9/3～9/6	単元テスト	一部の教科が実施する。	部活動ガイドラインに従って実施可。
10/2～10/4	単元テスト	一部の教科が実施する。	部活動ガイドラインに従って実施可。
11/6～11/8	まとめテスト	全ての教科が実施する。	5日前から部活動を停止する。
12/4～12/6	単元テスト	一部の教科が実施する。	部活動ガイドラインに従って実施可。
1/15～1/17	単元テスト	一部の教科が実施する。	部活動ガイドラインに従って実施可。
2/6～2/7	3年まとめテスト	全ての教科が実施する。	3年生は部活動を行っていない。
2/18～2/20	1, 2年まとめテスト	全ての教科が実施する。	5日前から部活動を停止する。

部活動でも対話的・協働的な学びによって目的を達成してほしい。

村上東中学校は部活動が熱心です。私は、当然、大会等で活躍してほしいという気持ちをもっています。例えば、野球で**強いバッテリー(投手と捕手)になるにはどうするか**。バッテリーが強ければ、試合で勝つ確率は高いです。ですが、授業時数や教科書の内容が平等なように、誰にも大会までの時間は平等です。たくさん投球練習ができるわけではありません。無理をすれば肩や腰を痛めてしまいます。私は、バッテリーの2人で、**勝つには何が必要か、対話をするのが大切だ**と思っています。「次はこういう練習をしよう」「外角低めのコントロールを磨こう」、さらに「毎日朝ご飯食べてこよう」「睡眠時間を確保しよう」など、生活習慣への自覚も高め合い、約束することが必要だと思います。練習量を増やすには限界があるので、コミュニケーション能力が高いグループになって、知恵を出し合い、お互いに約束をして取り組むことが効果的だと思います。休み時間や帰りのバスなど、部活動の時間以外でもできると思います。ぜひ実践してみてください。

※野球は、自分の競技に置き換えてお読みください。個人競技でも指導者との対話が重要です。